

妻ヶ丘中学校だより

令和5年8月29日 校長 深江 祐史

二学期が始まりました

37日間の夏休みが終わりました。皆さんの夏休みはいかがだったでしょうか。充実していたと自信をもって言えない人もいるかもしれませんが、まずは、大きな事故等の報告がなかったことを校長としてはうれしく思います。熱中症や水の事故、10代の若者が当事者となる痛ましい事件が報道される中、妻ヶ丘中生は、しっかりと生活してくれたようです。

さて、8月28日の始業式では、4名の生徒に「二学期の抱負」を述べてもらいました。

1年代表の 岩元 彩花 さんは、①決められたことを時間どおりに終わらせるようになりたい②委員長として、委員会活動などの自分の仕事をしっかりやりきりたい。

2年代表の 横山 英莉沙 さんは、個人としては①提出期限をしっかりと守りたい。さらに学年としては②時間を守るメリハリのきいた学年になりたい。修学旅行と文化祭をみんなが楽しめるものにしたことでした。

3年代表の 巢立 夢海 さんは、まず、「こんなに勉強した夏休みはない。特に数学と社会は基礎からやり直した」と堂々と述べました。(さすが受験生!)。その上で①学習面については、分かっていないところをそのままにしない②最後の文化祭なので、合唱を悔いの残らないよう真剣にやって、みんなと絆を深めたいことでした。

生徒会代表の 大橋 こころ さんは、自分たちの任期が残り2ヶ月なのでしっかりやりきりたいと力強く述べました。その上で①3年生なので受験勉強をしっかりやりたい②妻ヶ丘地区ふれあいまつりへ積極的に取り組みたいと、全校生徒へ向けて協力依頼を呼びかけました。

原稿有り、タブレット端末利用、そして3年生2人はノー原稿で、4名それぞれ実にしっかりした発表でした。いつも思いますが、さすが各学年の代表者そして生徒会役員です。

その後、私からは、全校生徒に対して以下の話(抜粋)をさせていただきました。

先日、夏休み中ではありますが、皆さん方が自宅に持ち帰っていたタブレットに文部科学大臣からのメッセージ「中学生・高校生のみなさんへ～不安や悩みを話してみよう～」を送信しました。見てもらったでしょうか。

皆さんが毎日の学校生活・家庭生活を送る中では、いろいろな悩みが出てくると思います。もちろん、まずは自分で考えて解決することも大切です。でも、適切に他の誰かに依存するのも大切です。子供だけではありません。多くの大人も困ったり、悩んだりしたときは、誰かに相談して、そして自分の考えを整理して世の中を生きています。私もその中の一人です。誰かに相談することは社会を生きる上で大切なスキルでもあり、とても自然なことです。

また、もし自分の周りに困ったり、悩んでいるような友達がいたら、ぜひ声をかけてあげたり、相談にのってほしいと思います。解決策を伝えるのは難しいかもしれませんが、それでも話をきいてあげるだけでその人の悩みが軽くなることもあります。そして、この相談内容の解決は、自分一人では難しいなと思ったら、先生や親など信頼できる大人に相談してみたいと思います。

本校では、毎月1日を「命を大切にできる日」として全校で人権宣言を唱和しています。これは、生徒会による本校の伝統的な活動であり、他校に誇れる素晴らしい取組です。今後もぜひ継続して行ってほしいと思います。大切なのは「相手の立場になって考える」ことです。これは大人でもなかなか難しいことではありますが、いろんな場面で、その瞬間に相手に心を飛ばせる皆さんになってほしいと思います。

最後になります。昨年のお話ですが、渡瀬 由那 生徒会長から今年の生徒会スローガン「妻ヶ丘中から世界・地域へ 最高の smile を」が発表されました。初めて聞いたときは、「世界かあ・・壮大なスローガンだな」そしてムーブ・オンです。「前に進む」ぞ、と会長から強い決意を感じたのを覚えています。さて、今、世界はスマイルであふれていると言えるのでしょうか……。



右は夏休み中の7月30日 日曜日の午前中に本校の木工室で地域の行事「夏休み親子工作教室」が開催された時の様子です。東小・上長飯小で希望する小学生とその保護者が参加して木材加工を行いました。



その時に主催者からお願いされてボランティアで作業のサポートを本校のものづくりクラブの生徒がしてくれました。手を出しすぎないようにサポートするには、なかなか難しかったと思います。

右は8月1日のことです。登校日の学級活動の後になりますが、今年、10月末に妻ヶ丘地区ふれあいまつりが約4年ぶりに開催されます。今年は、そのまつりに中学生が協力することになりました。これは昨年度からまちづくり協議会と本校の生徒会の間で話が進められてきたことですが、いよいよ、実行委員の方と生徒会が具体的な打ち合わせをしている場面です。



「妻ヶ丘中から世界・地域へ 最高の smile を」

皆さんの活動が世界へスマイルを届けられているかどうかは分かりませんが、少なくとも地域に対しては、すばらしいスマイルを届けられていることをお知らせしておきます。

親子工作教室では、地域の小学生と保護者の方のたくさんの笑顔を見ることができました。妻ヶ丘中生が地域にスマイルを届けています。

地区ふれあい祭りの役員の方々は、いつも会う度に皆さんに感謝の言葉を述べられます。実行委員を含め、まつりにかかわる多くの大人の方々は、この話をされる時は本当にうれしそうで笑顔であふれています。そうしているのは妻ヶ丘中生です。

「自立・感謝・貢献」です。それに順番はないと思っています。逆もよくあることです。何かに誰かに「貢献」しようと動いた、そこで「感謝」された、自分の中に「感謝」の気づきが生まれた。だから、もっとしっかりした自分になりたいと思った。「自立」した自分になりたいにつながった。こういう流れもあると思います。

行事の多い二学期です。まず、自分でそして仲間と一緒にいろんな経験をして、みなさんの心と体が大きく成長する二学期になることを期待して私の話を終わります。